

太宰治と中国：作品における中国的モチーフについての考察

劉, 金宝

<https://doi.org/10.15017/1500470>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（比較社会文化）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 劉 金宝

論 文 名 : 太宰治と中国—作品における中国的モチーフについての考察—

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

従来、太宰治と中国との関わりは主に「股をくぐる」、「清貧譚」、「竹青」と「惜別」に限られている。先行研究のほとんどは太宰治の翻案物とそれぞれの中国原典との比較に留まる。一方、「服装について」における寒山拾得や「惜別」における魯迅を取り巻く中国の歴史背景に関する描写などのような、中国的なモチーフも太宰治作品に散見するが、これらについては従来あまり論じられていない。本稿では、従来の先行研究において論じられていない太宰作品におけるこのような中国的なモチーフを対象として、論を展開し、太宰と中国の説話や歴史や人物などとの関わりを中心に考察した。

太宰治と中国といえば、中国人に読んでもらうために書いた「竹青」と「惜別」は注意すべき作品であろう。第一章では、「竹青」と「惜別」における中国古典と中国地理の知識をまとめた上で、太宰治がなぜ、この二作に中国古典や中国地理を多く取り入れたのか、という問題を解明した。

第二章では、先行研究に基づいて、「惜別」の執筆に際して、太宰治の参照した資料を整理した上で、補足を加えた。「惜別」における「康有為が、日本の維新に則り、旧弊を打破し大いに世界の新知識を採り、以て国力回復の策を立てよと叫び」と『世界歴史大系』第9巻『東洋近世史(二)』における「日本の明治維新に則つて、旧弊を打破し世界の新知識を採り、以て国力回復の策を立てよと叫び」との表現はまったく同じなので、「惜別」における中国同盟会の成立や日清戦争以降の列強の中国への進出や康有為・梁啓超などによる戊戌変法などの中国に関する描写の典拠は『東洋近世史(二)』にあることを検討した。一方、既に指摘されている太宰治の参照した資料にも、『東洋近世史(二)』にも載っていないが、「惜別」に現れる孫文と康有為との対立などに関わる描写の典拠は可能性として吉野作造『対支問題』や周佛海著・犬養健訳『三民主義解説』などを述べた。

第三章では、「思い出」における「赤い糸」と中国の赤縄説話との関わりを考察した。中国と日本における赤縄説話を概観し、身分の格差または、それによる家族の反対を表現する箇所の有無、赤い糸の結ばれる時期は「生まれた時」であるかどうか、を根拠として、太宰治の「赤い糸」の典拠を『故事成語考』、「定婚店」と沖縄に伝わる赤縄説話のいずれかに絞った上で、ヒロインは赤ん坊であるかそれとも少女であるかを決め手として、結局、太宰治の「赤い糸」の典拠は中国の「定婚店」と「灌園嬰女」が融合して成立した沖縄の赤縄説話にあると論証した。

第四章では、太宰治の「服装について」における寒山拾得像を考察した。太宰治の読んだ「寒山詩」は太田悌蔵訳注の『寒山詩』であることを確認し、寒山拾得を主題とする絵画や文学作品を概説した上で、「服装について」における「非凡な格好をして人の神経を混乱させ圧倒する」という表現や太宰治と芥川龍之介・井伏鱒二、また絵画との密接な関係を根拠として論を展開し、太宰治の寒山拾得像は直接的に、或いは井伏や芥川の作品が介在して間接的に、曾我蕭白の「寒山拾得図」に基づいて造形したグロテスクなものであると分析した。

第五章では、「惜別」における表現や関連随筆に基づいて、大酒を飲みながら貧しい生活を送っているという竹林七賢観を太宰が持っていたことを確認した上で、そうした竹林七賢観を「晋書」や

「世説新語」における竹林七賢に関する記載と対照させて、太宰の竹林七賢観が一面的なものであったことを論じた。

以上のように、第二章から第五章までは、中国の歴史、中国の説話、中国の人物を、素材にして考察した。第六章では、視点を変えて、太宰治作品がいつ、誰によって中国に紹介され始めたのかということについて検討した。「幻の漢訳」と呼ばれる「竹青」と「惜別」の掲載（予定）雑誌であった『大東亜文学』の性格について説明した上で、訳者の人物像や翻訳の経緯を考慮した結果、昭和17年の章克標による「きりぎりす」の中国語訳である「蟋蟀」が太宰治作品の漢訳の嚆矢であることを解明した。

本論文の考察を通じて、太宰治と中国との関わりは中国の文学作品以外に、中国歴史、中国地理、中国人物（寒山拾得や竹林の七賢人など）、中国説話（赤繩説話や蕉鹿説話など）など、中国文化のいろんな面に涉っていることが明らかになった。このような研究を通して、次のような学術成果が期待できると思われる。

◇太宰治と中国文学との関連について、従来の研究は翻案物にのみ注目してきた。本論文では特に、太宰治作品に散見する中国的なモチーフに照明を当て、従来の研究で欠落した部分を補う。

◇今後の太宰治の創作方法や世界観に関する研究に論拠を提供する。

◇今後の太宰治研究に役立つと思われる中国の文献を資料として提供する。